

18

# 交差点右折時のドライバーの運転特性

自動車安全研究部  
東京都立大学

※松井 靖浩 細川 成之 田中 良知  
及川 昌子

**背景** 我が国のセダン及び車両総重量(GVW)7.5t以下貨物車と歩行者との低速度衝突事故では、右折時に歩行者へ衝突する事例の割合が最も高い

**目的** 信号機のある交差点でセダン及びGVW7.5t以下貨物車が右折する際に、歩行者の存在がドライバーの運転行動に及ぼす影響の明確化

**方法**

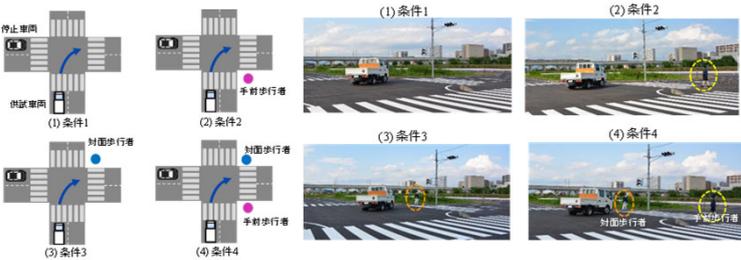
(1) 供試車両



(2) 被験者 計15名(大人男性13名、大人女性2名)

(3) 実験条件

歩行者提示条件



(分析1) 視線注視対象

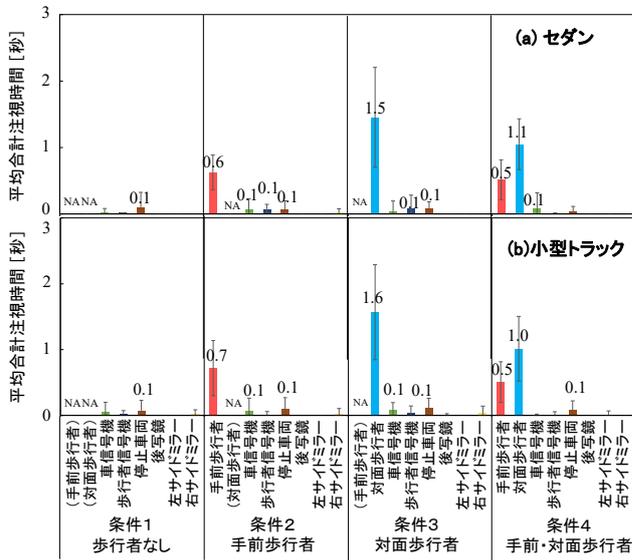
視線注視対象	
道路環境	(1) 手前歩行者 (2) 対面歩行者 (3) 車信号機 (4) 歩行者信号機 (5) 停止車両
車種	(6) 後写鏡 (7) 左サイドミラー (8) 右サイドミラー
セダン	視線計測用眼鏡装着状態
小型トラック	

(分析2) 走行速度計測位置



**結果**

(分析1) 特定8注視対象:合計注視時間の平均値

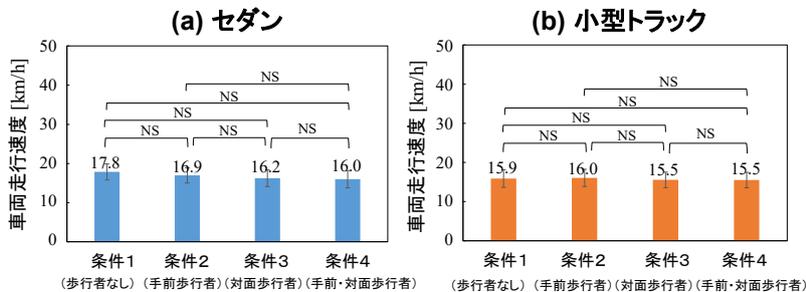


数値: 0.1以上を表示

歩行者モデルを注視した合計注視時間の平均値はセダンと小型トラックが近似

(分析2) 交差点出口における車両走行速度の平均値

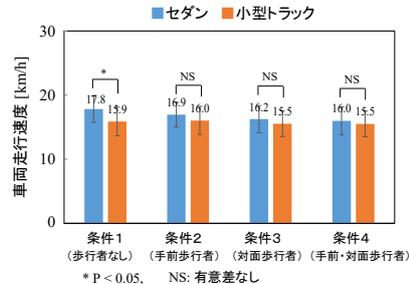
(1) 条件毎の比較



NS: 有意差なし

車両走行速度は歩行者の提示条件に依存しない

(2) セダンと小型トラックとの比較



\* P < 0.05, NS: 有意差なし

セダンは小型トラックと比べ平均車両走行速度が速い

**結論** セダン及び小型トラックを使用し、交差点進入時のドライバーの運転特性を把握できた。

- 歩行者モデルを注視した合計注視時間の平均値は、セダンと小型トラックが近似
- 交差点出口の横断歩道中央位置における車両走行速度については、歩行者の提示条件に依存しない

将来、右折時の歩行者検知型被害軽減システム等の安全規則を検討する上で基本情報となる、ドライバーの運転特性や交差点進入時の走行速度等を示す位置付けとなる。